

令和8年度（2026年度）第2回東海市地域公共交通会議録

○会議の名称 令和8年度（2026年度）第2回東海市地域公共交通会議

○開催日時 令和8年（2026年）8月20日（木）

午後1時30分から午後3時00分まで

○開催場所 東海市商工センター 多目的ホール（1階）

○出席委員 星川功（会長）、齋藤誠（副会長）、嶋田喜昭（議長）、近藤博之、
内藤真一、稲野勝（代理）、小林裕之、南伸幸、小島浩資、
湯浅一成、村瀬謙治、片桐真砂子、蟹江祥裕、坂本美和子、勝部翼、
服部和子、佐治恒次、青山純、小田春樹（代理）、桑山忍、
北川秀一（代理）、太谷肇仁、市川哲也（代理）

○欠席委員 川添地芳

○事務局 都市建設部長、都市計画課長、同統括主任2名、同主任3名、
同主事補

○傍聴者の数 4人

○議題及び審議の概要

1 開会のことば

2 会長あいさつ

（会長）

会長から挨拶があったもの。

3 報告事項

(1) 前回の会議録の確認について

(2) 循環バスの利用状況等について

事務局から資料1及び資料2に基づき一括説明

（議長）

循環バス富木島線の利用者が前年度と比較するとやや苦戦しているように見えるが、この要因について事務局側で把握している理由はどのようなか。

（事務局）

富木島線の利用者数が4月から減少している要因として、年度の切り替わり

に伴う学生や社会人の移動状況の変化により、利用者数が減少したことが考えられる。

また、知多バスの上野台線についても利用者数が減少しており、同様の要因ではないかと考えられる。

(委員)

通学による影響はあるか。

(事務局)

富木島線の沿線には高校がなく、鉄道駅方面へアクセスする路線という特徴がある。富木島線により鉄道駅まで移動し、そこから通勤・通学しているという層の動きが減少したのではないかと考えられる。

(会長)

循環バスの利用状況について、今年度はこれまでの年度と比べても利用者数が増加傾向にあるが、この増加についてどのような特徴や傾向はどのようなか。

(事務局)

名和線、荒尾線及び横須賀線は、利用者数が増加傾向にあり、要因として沿線住民による買い物や通院などを目的とした利用が増えているものと考えられる。

また、これら3路線は複数の鉄道駅にアクセスする路線であるため、通勤・通学目的の利用も増えているものと考えられる。

(会長)

現行路線に対する認知が進んでいるようで良い傾向にあると思われる。

4 協議事項

(1) 議案第1号 デマンド交通「チョイソコとうかい」の実証実験について

事務局から資料3に基づき説明

(委員)

実証実験への懸念点として、大同病院へのデマンド運行により、これまでタクシーを利用していた方がチョイソコとうかいへ移行し、タクシー利用者が減少する可能性がある。

また、大同病院への利用が集中した場合、他の目的でチョイソコとうかいを利用する方の予約が取りにくくなったり、待ち時間が増加したりすることも懸

念点となる。

現在は車両1台での運行を想定しているが、今後運行台数を増やす場合には、タクシー事業への影響も含め、実証実験で得られたデータを踏まえて慎重に検討してほしい。

(事務局)

今回の実証実験については、大同病院への運行だけでなく、運行条件を名和町全域といったエリアの拡大や目的地間の移動を一部可能とすることを考えている。こうした変更点によりチョイソコとうかいの利用者は増加する可能性があるが、一方で、既存のタクシー事業者や鉄道、バスへの影響も想定している。チョイソコとうかいは本来、循環バスを補完する役割を担うものと考えているため、その影響について検証し、令和9年4月からの実証実験では、特にタクシー事業者と十分に協議しながら進めていきたい。

また、実証実験の前後で、チョイソコとうかいの利用増加だけでなく、タクシーや鉄道、バスの利用状況がどのように変化したかをデータで検証し、地域公共交通全体への影響を把握した上で、今後の名和地区の交通のあり方を検討していきたいと考えている。

運行台数については、現時点で増車は考えておらず、まずは1台・定員8人での運行を前提としている。現在の利用状況では1台でも対応できる余裕があるため、まずは1台での実証実験を行い、利用状況や需要を確認することとしている。

また、増車した場合には利用効率や費用対効果の低下も考えられるため、慎重に判断する必要があると考えている。

(委員)

1台での運行を前提とすることについて、今後1年程度の中でどのような変更を想定しているのか。また、タクシーへの影響が大きくなれば、チョイソコとうかいのと運行の取り止めや再編の可能性も少なからずあると思われる。

そのため、今後の運行台数や運行継続の可能性など、チョイソコとうかいに関する情報を事前に市民へ周知し、あらかじめ実証実験の内容や今後の可能性を理解できるようにする必要があると思われる。

(議長)

タクシーの需要を奪うことなく、相乗効果の生まれる形になればと思う。

チョイソコとうかいの利用者に対して利用者アンケート調査を実施する際に、例えば以前はタクシーを利用していたがチョイソコとうかいを利用するようになったケース、タクシーとチョイソコとうかいを併用しているケースなど、利用実態を把握すべきだと思われるがどうか。

(事務局)

令和6年度、7年度の利用会員向けアンケートにおいても、チョイソコとうかいを利用する前にどのような公共交通手段を利用していたのかを調査し、利用実態を把握していた。タクシーからチョイソコとうかいへ利用が移行した割合についても、データとして把握している。今後は、目的地までの移動について、以前利用していた交通手段と現在利用している交通手段を具体的にアンケート調査していきたい。

また、行きはチョイソコとうかい利用で帰りはタクシー利用という両者の相乗効果を生み出すような利用案内をしていければと考えている。

今後、交通事業者を対象として、鉄道、バス、タクシー等の事業者へのヒアリングを実施する予定であるため、その中で交通事業者から東海市の地域公共交通のさらなる構築及び維持改善に向けて様々な議論をしていきたい。

(委員)

大同病院のような東海市外へのアクセスについては、関係する自治体との協議や合意、名古屋市地域公共交通協議会との議論も必要になると思うが、この点について、どのように考えているのか。

(事務局)

関係する自治体との協議や議論が必要になることは十分に認識している。

また、自治体だけでなく大同病院への乗り入れに関係する交通事業者との協議も必要になると考えている。

名古屋市に加え、名古屋市交通局、タクシー協会、鉄道事業者等との交通事業者と協議を進め、そこで得られる課題に関して議論し、関係機関との合意を経た上で、大同病院への乗り入れを判断していきたい。

(会長)

大同病院への乗り入れを開始した後にタクシー事業者へ大きな影響が生じた場合、大同病院への乗り入れを途中で取りやめることは難しいと考える。

乗り入れを開始する前に、タクシー事業者等への影響について十分にシミュ

レーションを行うとともに、関係機関と協議・調整してほしい。

(事務局)

大同病院への乗り入れについては、あくまで調整という位置づけであるため、地域公共交通会議において報告・協議を行い、委員の皆様からいただく意見を参考にすることが重要だと考えている。

利用者ニーズだけでなく他の交通事業者への影響を考えながら進めていくことが、市が進める地域公共交通のあり方であると考えているため、関係機関との調整を十分に進めていきたい。

(委員)

資料3-1の6の「多く利用されている停留所（令和6年10月～令和8年7月）」について、停留所の利用回数を前回との比較が分かるようなグラフを示してほしい。

(事務局)

他の指標等も含めて前回との比較が分かり易いように資料をまとめていきたい。

(委員)

今回の実証実験で改めて運行条件を見直すということで、前回の議論で挙げられた、1人当たりのコストが大きくなることや利用ニーズ等を要因として、運行条件を見直したという理解でよいのか。

(事務局)

そのとおりである。持続可能な公共交通として運行を継続していくためには、これまでの実証実験の運行条件では難しいと判断した。

今回の運行条件の変更によって、持続可能な運行が可能となるのかを検証する必要がある。また、運行条件の変更によっては既存の交通事業者の事業継続が困難となってしまうことは避けなければならないため、東海市全体として持続可能な地域公共交通のあり方を模索していきたいと考えている。

(委員)

資料3-1の3と4で利用人数が目標値を上回る一方で、乗合率は目標値を下回る結果となった。大同病院へは朝方に利用する人が多く、タクシー利用がチョイソコとうかいへ移行することによるタクシー事業者への影響が懸念される。タクシー事業者への影響や運転者不足といった状況も踏まえ、できる限り影響

を抑えるよう対応してほしい。

また、車両を2台に増車すると、1人当たりのコスト等にも影響が出ると思うため、まずは1台で開始する方が望ましいと考えられる。

大同病院をはじめとする市外の目的地や、今回の運行区域・目的地の変更に
よって、タクシー事業者等にどのような影響が生じるのかについて、幅広い交
通事業者から幅広く意見を聴取する必要がある。過去にも、行政による施策が
既存の交通事業者の経営等に想定以上の影響を与え、後に事業継続が困難とな
った事例があることから、そうした影響を十分に考慮する必要がある。

そのため、3年間の実証実験を固定的に実施するのではなく、実施状況や交
通事業者への影響を適宜確認し、必要に応じて運行内容を見直すことが可能な
仕組みとして進めてほしい。

(事務局)

様々な検討や調整を十分に進めていかなければならないと認識している。引
き続き皆様の意見を聞きながら、関係機関とも十分に協議を行っていきたい。

(議長)

そもそも途中見直しは可能か。1年間は実証実験しないといけないのか。

(事務局)

どのような条件変更を行うかにもよるが、大がかりな変更点がある場合には、
中部運輸局愛知運輸支局に相談する必要がある、変更が必要な際には中部運輸
局愛知運輸支局と調整をしながら進めていきたいと思っている。

(会長)

先ほどの説明にもあったように、デマンド交通は既存の地域公共交通を補完
することが目的である。鉄道・バス・タクシー等、様々な地域公共交通とチョ
イソコとうかいの共存共栄、相互発展という視点を意識して進めてほしい。

(議長)

資料3-1の4の乗合率について、令和8年7月は目標値を下回っているもの
の、前月の令和8年6月に比べて大きく上昇し、1.42となっているが、この
要因はどうか。

(事務局)

チョイソコとうかいは全体的に午前中の利用が多く、令和8年6月では9時
台、10時台、11時台が各50人弱であったのに対し、令和8年7月は各時

間帯で60人程度と、それぞれの時間帯で利用が増加している。前月と比べて、利用者の行き先が合致し、その結果、乗合率も高まり、乗車数も増加したのではないかと考えている。

(議長)

チョイソコとうかいの運行時間について、18時までから16時までに短縮しているが一度に2時間も短縮するのではなく、まず17時までとするなど、段階的に短縮した方が良いのではないかと考えている。

これは16時から18時まで利用者が少ないことが理由なのか。

(事務局)

実証実験開始前の想定では、夕方の16時台、17時台も利用者が多いと想定していたが、他の時間帯と比較して少なく、14時台から16時台の利用者数に大きな変化は見られなかった。

チョイソコとうかいの利用は午前中が特に多い傾向にあり、費用対効果を考慮すると、16時台、17時台の運行は効果が低いと判断したためである。

(委員)

今度の3カ年に対して改めての目標設定はあるか。

(事務局)

現時点で元々定めていた3つの目標のうち2つは目標を達成しているが、デマンド交通を本格運行している他自治体の状況を見ながら、コスト面を考慮して今回定めている目標値の見直しを図る必要があると思っている。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

(2) 議案第2号 公共交通に関するアンケート調査等について

事務局から資料4に基づき説明

(議長)

資料4-2の7ページのバス乗降調査について、問1と問2は、利用者に直接記入していただく形なのか。

(事務局)

問1の乗車バス停と降車バス停については、調査員が利用者にヒアリングし、聞き取った内容をバス調査員が記入する形とする。

また、以降のバス乗車前後の移動手段、支払い方法、利用頻度、年齢についても、バス調査員が利用者にヒアリングし、バス調査員が記入する形で考えている。

(議長)

利用目的についての問いはあるか。

(事務局)

バス乗降調査と同時に配布する循環バス及び知多バスの利用者アンケート調査票にバス利用目的に関する設問を設けているため、そこに記入していただくことを考えている。

(議長)

事後のアンケート調査票では必ずしも回答が返ってくるとは限らないため、バス乗降調査の方にも利用目的も追加するべきだと考えるがどうか。

(事務局)

各アンケート調査で必要となる設問を再度検討する。なお、前回のアンケート回収率について、バス利用者アンケート調査の回収率は約36%、バス乗降調査は約99%という結果になっている。そのため、確実に把握したい設問については、バス乗降調査に追加するなどの対応を検討する。

(委員)

バス利用者アンケート調査には、「交通系ＩＣカードの保有有無」と「スマートフォンの保有有無」の設問がある一方で、市民アンケート調査にはこれらの設問が設けられていない。市民アンケート調査にこれら2つの設問を追加することは可能か。

(事務局)

追加することは可能である。バス利用者アンケート調査について、バス利用者がＩＣカードを保有している場合は、ＩＣカードを活用した利用促進策を実施し、また、スマートフォンを保有している場合は、バスロケーションシステムのような情報発信を行うなど、こうした取組みがバスの利用促進につながると認識しているため、設問に追加している。

市民アンケート調査については、設問を追加するかどうか今後検討していきたい。

(委員)

I Cカードを保有していない方やバスを利用していない市民も含めて、適切に分析することは可能か。

(事務局)

市民アンケート調査ではクロス集計が可能であるため、例えば、I Cカード保有者のうち、公共交通を利用している割合などを分析することは可能である。一方でI Cカードを保有していない市民についてもクロス集計も可能であるため、そちらも分析していきたい。

(議長)

16歳以上の東海市民2,000人はどのように抽出するのか。

(事務局)

東海市内の各エリアの人口割合及び年代構成を考慮しながら抽出するが、基本的に無作為抽出とする。

(議長)

市民アンケートについて、過去の回収率を踏まえると、今回はどの程度の回収率を想定しているのか。

(事務局)

2,000人のうち800人程度回収できれば分析に必要な回答数を確保できると想定しており、今回の目標回収率は40%としている。

前回の市民アンケートでは、3,500人のうち1,800人程度を回収し、回収率は52.6%であった。そのため、今回の市民アンケートについても、目標回収率である40%を上回ると想定している。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

議題終了

5 閉会のことば

(事務局)

次回の会議は12月16日水曜日の午後2時00分からの予定である。

以上